

令和2年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間・最終)

呉中央中学校区 校番 13 呉中央中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	<p>① 生ききる根っこを育てる「豊かな学び」の創造</p>	<p>生徒が主体的に学び、思考力を育む授業改善を進める。 (教務)</p>	<p>「授業が分かる」と回答した生徒の割合は、7年90%、8年86%、9年83%であった。全体としては目標値を達成しているが、教科ごとに見ると目標値を下回るものもあり、「分かる授業」の実現に向け課題解決型の深い学びができる授業過程の工夫が必要である。</p>	<p>2学期より各授業グループでの授業研究に取り組み、学園の目指す資質・能力の育成に向け、「分かる授業」づくりに取り組んでいく。</p>
<p>個別支援プログラムを作成し、組織的に取り組む。 (学年)</p>		<p>通過率30%未満の割合が7年生では4%、8年生では13%、9年生が10%であった。特に8年生の期末試験の数学では23%という割合である。生徒間の学力差が拡大しており、生徒個々の状況に対応した指導が充分できていないと考えられる。</p>	<p>試験週間中の水曜日に数・英の試験において通過率30%未満の生徒を対象に放課後補充学習を実施している。引き続き実施していくとともに、9年生は受験を意識し、毎日の放課後10分学習にも取り組んでいく。</p>	
<p>家庭学習と授業との関わりを強め、自学自習のできる生徒の育成 (教務・学年)</p>		<p>目標時間の達成率は、1学期期末試験の1週間前からの調査で7年73%、8年69%、9年69%であった。生徒の実態に合った課題の内容の提示など、個別の支援が必要である。9年生は、受験への意識の高まりもあり、2学期中間試験では72%の生徒が目標を達成した。</p>	<p>「呉中央スタンダード」の家庭学習の欄を活用し、学習内容等の個別指導を行う。また、『メディアコントロール・学習時間チェック表』を活用し、家庭学習を促す。その際、保護者にもメール配信でお知らせし、協力を呼びかける。</p>	
**	<p>① 生ききる根っこを育てる「豊かな生き方」の創造</p>	<p>生徒の「心の居場所」がある学校づくりの推進 (学年・生徒指導)</p>	<p>休校や学校行事の中止で学級活動がほとんど行われていない中でも、学級活動や生徒会の委員会活動において一人一役の役割を与えて活動を行った。「自分には良いところがある」とアンケートで肯定的な評価をつけた生徒は7年で79%、8年は84%、9年は70%、全体では79%という結果になった。仕事や役割を評価するための取組がまだ十分でない中で、日々の生徒への声かけなど自己肯定感を高める活動が概ねできたと考えられる。</p>	<p>2学期も引き続き、学校行事にも制限がある中で、学級や学年で係や委員会の仕事に対する肯定的な声かけを継続していく。各学年の実行委員の活動、学級集団作りの活動、取組において、生徒が主体的に発案する場面を増やす工夫をしていく。</p>
<p>道徳教育の改善・充実を図り、自他の命を大切に育てる生徒の育成。 (教務・学年)</p>		<p>「道徳の時間は役に立つ」と回答した生徒の割合は全体で87%で、目標値である80%は全学年達成することができた。生徒のほとんどは道徳の必要性を感じているが、否定的な生徒も全体で14%という。道徳の時間の中で自分事として考えさせたり、自らの生活と関わらせて考えさせたりするような授業づくりを、積極的にしていく必要がある。</p>	<p>授業のねらいを事前にしっかり考え、中心発問を準備していく。教材には書かれていない登場人物の思いや道徳的な価値について問いかけたり、「自分だったらどうするか。」と問いかけたりしながら、自分事として考える場面を増やす工夫をしていく。</p>	
*	<p>① 生ききる根っこを育てる「しなやかな体」の育成</p>	<p>施設一体型小中一貫教育の強みを活かし、運動的諸活動の充実を図る。(体育科)</p>	<p>新型コロナウイルス感染防止に伴い、2学期に新体力テストを実施する予定である。</p>	
<p>施設一体型小中一貫教育の強みを活かし、運動的諸活動の充実を図る。(体育科) 家庭と連携を強化し、協働で生徒の成長を支える環境をつくる。 (学年・生徒指導)</p>		<p>「朝、毎日ご飯を食べているか」という問いに対して、肯定的な回答をした生徒は、7・8・9年生ともに90%であった。遅刻については、一度も遅刻をしなかった生徒は248人で86%(延べ回数は7年生14回、8年生77回、9年生116回)である。複数回遅刻する生徒が学年が上がるにつれて増え、固定化してきている。休校中のメディアやゲーム依存による睡眠不足が多く休校明けのアンケートによると夜10時以降もメディアを利用している生徒の割合が7年生で15%、8年生で21%、9年生で23%と学年が上がるにつれて多くなっている。1日の使用時間も4時間以上が全校の10%程度おり、生活習慣の乱れにつながっていると考えられる。</p>	<p>引き続き、家庭学習強化週間で起床、就寝、学習開始、メディア終了時間を把握するとともに、気になる生徒については懇談会等で家庭学習時間調査票やメディアコントロール取組表を保護者に見せ、家庭との連携を図っていく。また、メディアコントロール週間も設定し、メディアとの上手な付き合いができるよう助言する。遅刻が多い生徒には、学年担任からの家庭連絡を継続し、保護者とともに取り組み、また、出欠黒板を利用し教職員全体で情報を共有し、指導していく。</p>	
業務改善	<p>生徒と向き合う時間を確保する。</p>	<p>生徒と向き合う時間を確保する。</p>	<p>「向き合う時間が確保されている」と回答した教職員は74%で、生徒への個別指導を行うことも頻繁にあった。</p>	<p>行事の精選を図り、会議内容の事前周知、集合時間の厳守を呼びかける。</p>
	<p>時間外勤務の縮減を図る。</p>	<p>時間外勤務の縮減を図る。</p>	<p>臨時休業中は時間外勤務は減っていたが、授業再開後、効率的な授業運営のための準備や部活動で時間外勤務が増える傾向にある。</p>	<p>スクールサポートスタッフの活用と、業務の分散を図る。</p>